

## 参考資料

### 『TOKYO ACTIVE PLAN for students（中間まとめ）』に対する都民への意見募集の結果について

#### ○ 意見募集の結果の概要

##### 1 募集期間

令和4年2月3日（木）から  
同年2月24日（木）まで

##### 2 提出方法

電子メール又は郵送

##### 3 意見の総数等

合計57件

##### 5 属性と意見の数

属性	件数
ア 児童・生徒	25
イ 学生	5
ウ 保護者	3
エ 学校関係者	6
オ その他（個人・団体）	18
合計	57

##### 4 項目と件数

項目	件数
I 策定の意義	
1 計画の目的	2
2 大会開催としての東京	-
3 東京の姿と子供たち	-
II 子供たちの体力向上に向けた具体的な考え方	
1 育てたい子供の力	-
2 東京型体力向上モデル	-
III 体力向上のための今後の方向性	
1 これまでの取組	-
2 現状・課題	11
3 体力向上施策の方向性	6
IV 具体的な方策	
PROJECT 1 個別最適な学びを実現する授業の実践	6
PROJECT 2 スポーツライフの推進	8
PROJECT 3 健康的な生活スタイルの確立	4
PROJECT 4 多様なニーズに応じた運動部活動の充実	7
PROJECT 5 東京2020大会レガシーの浸透	12
その他	
その他	1
合計	57

## 6 都民からの主な意見と見解

章	分野	主な意見	意見に対する見解
I	1 計画の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら運動・スポーツに参画することにより、結果として体力が高まることを目指していると理解した。子供の体力向上については、この考え方を中核に置くことに賛同する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本 PLAN において、子供たちが運動やスポーツを楽しむことを大切にしていきます。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・このプランで TOKYO という都市は何を得たいか？言い換えると VISION は何か？体育等を通して「TOKYO がどういう都市として世界から認知されたいのか？」を徹底的に考えることが大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I 「TOKYO ACTIVE PLANfor students」策定意義に記載しました。</li> </ul>
	2 大会開催としての東京		
	3 東京の姿と子供たち		
II	1 育てたい子供の力		
	2 東京型体力向上モデル		
III	1 これまでの取組		
	2 現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動時間や生活習慣、運動への愛好度などが課題に挙げられており、この問題の本質を理解されている内容であると感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態を把握し、課題を分析した上で、効果的な取組を実施することを大切にします。</li> <li>・ III 3 体力向上施策の方向性に環境整備の視点、IV「具体的な方策」の PROJECT 1 から 5 に取組例として記載しました。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「どうして体育の授業が楽しくない」のか「楽しくない子ども」の回答をもとに分析した後、改善すれば「楽しくない→楽しい」に転換するのではないか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題として「学年が上がるにつれてスポーツをする、したいと思う人が減少」など書いてあったが、この原因は「スマートフォンの使用」などの自分の楽しみのために時間を使っていることだけではないと思う。私は学年が上がるにつれて、学習塾や宿題などの学習時間が増えていくことによって、スポーツをする時間が減っているのだと考えた。このことから学習時間との関係も考える必要があると思う。</li> </ul>			

Ⅲ	3 体力向上施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私の学校では、一人1台端末を利用している。レポートを提出した際には、先生から「その方向性は正しい」や、「もっと〇〇するとよい」などと返信してもらえると、新たな発見ができると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術を効果的に活用することを大切にしていきます。</li> <li>・Ⅱ 2 東京型体力向上モデルにデジタル技術の活用によって、子供たち一人一人の力を最大限に伸ばす「学び」について記載しました。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンなどを使って体育をすると、自分が見えないもの(動きなど)が見え、よいと思う。運動が嫌いな人でも好きになれるような授業ができる日がくるといい。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域社会の力を活用した多様な運動の機会の創出」「専門的な外部指導者等と連携した健康的な生活スタイルを確立する取組の推進」「関係団体等と連携した誰もが楽しめるスポーツを実施」については、現在スポーツ庁が来年度の実施に向けて議論を進めている、「運動部活動の地域移行」ともリンクさせて考えていかなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Ⅳ PROJECT 4 の取組例として記載しました。</li> </ul>
Ⅳ	PROJECT 1 個別最適な学びを実現する授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら体力を高める、1 端末で管理し合理的な運動を行う等の理念に賛成する。時代に合わせて運動も合理的に行う、素晴らしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エビデンスベースの最適化された学びの提供、教師の教え方や子供の学び方の改革を推進していきます。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の学びを最適化でき効率的に学べるのは納得感が強い。</li> <li>・先生の実力や知見、専門性に左右されない客観性がよい。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別最適な学び」について、デジタルの進化により可能だから出来るという設定は理解できるが、肝心の「なぜ必要なのか」の考察がない為、具体的に何をなそうとしているのかが不明瞭になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来の東京」に生きる子供の姿を実現するためには、子供たち一人一人の力を最大限に伸ばす学びが必要です。</li> <li>・Ⅳ PROJECT 1 に記載しました。</li> </ul>
	PROJECT 2 スポーツライフの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外に目を向けると、ボール遊び禁止といった制限が掛かっている公園も多いため、子供が自由かつ多様な外遊びができない現実がある。公園周辺に住む地域住民の意識の変化も含め、新設だけでなく、既存の設備も生かして、昔のように子供がのびのび遊べるハード面の充実もお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びや運動・スポーツを行うには、「時間」「空間」「仲間」を地域の実態に応じた方法で確保することが必要です。</li> <li>・取組例として記載しました。</li> </ul>

IV	PROJECT 2 スポーツライフの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業、大学、NPOなどと連携することにより、最新の技術や考えを取り入れることができ、将来やりたいことの夢を抱くチャンスにもなると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京には、多様な専門人材や最先端の企業、研究機関など、豊富な社会的資源が集積しています。</li> <li>・子供たちが主体的に学び続ける力等を育むためにも地域や子供たちの実態に応じ、多様なリソースを最大限に活用することを大切にしていきます。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域社会の力を活用」とあり、民間企業や大学等との連携とありましたが、まさに子供たちにとっての「先生」を学校以外で多く作って、スポーツの楽しさを伝えていく機会があるとよいと思う。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材はどんな人なのか。スポーツクラブのコーチなどか。</li> </ul>	
	PROJECT 3 健康的な生活スタイルの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが運動すれば健康的な生活習慣に自らの取組でなれるなんて知らなかった。私は、運動しなくても、健康になれると思っていたが、運動をしなければ体力もつかないし、脳も発達しにくくなるので、なるほどなと思った。だから、この方策はとても良いと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関する知識を身に付け、子供たちが自分の生活の中でその認識を深めていくことができる取組を大切にしていきます。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣を整えたい理念には賛成する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的に何かをアクションするイメージがわからない。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育以外の場で、体育とかかわりのある健康的な生活スタイルを学ぶことができることは、よいと思う。</li> </ul>	
	PROJECT 4 多様なニーズに応じた運動部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体とは具体的にどのような団体が考えられるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科等横断的な視点等を踏まえた指導により、子供が自ら健康的な生活を習慣を送ることができるようになる取組を大切にしていきます。</li> <li>・地域のスポーツクラブ等と学校が協働した取組を大切にしていきます。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・妹は、近所のボルダリングのジムにたまに通っている。市内のスポーツクラブなどと学校が連携し、部活動の選択肢を広げるといったのがあったらいいと思った。これだと、学校内にそれぞれのスポーツに必要な施設・設備がいないのに加え、市内なので気軽に行くことができる。</li> </ul>	

IV	PROJECT 4 多様なニーズに応じた 運動部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>例えば 50m走を今より速く走るための指導をしてもらおうとした時に、具体的にどういう理屈で速くなるのかが分かると嬉しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医・科学的な知見を生かしたトレーニングを導入し、短時間でより効率的・効果的に技能の向上につなげる取組を大切にしていけます。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>私はそもそも、スポーツというと、サッカー、野球、バスケットボールなどの誰でも聞いたことがあるようなものしか知りません。だから、スポーツの種類には、どんなものがあるのかという段階から学びたいと思った。オリンピック・パラリンピックを見て、初めて知ったスポーツもあった。子供の頃からスポーツの種類を知ること、興味をもてるスポーツを見付けることができ、スポーツの活動の推進につながると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む基盤として、運動やスポーツを持続可能なものとするため、子供の多様なニーズに応じた運動部活動を創出していきます。</li> </ul>
	PROJECT 5 東京 2020 大会 レガシーの浸透	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京 2020 大会レガシーの浸透の取組を計画していることには、素晴らしいと思う。これは都が全国をリードして取り組んでいただくとともに、成果を全国に発信していただきたい取組である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京 2020 大会の経験を活かすことができるよう、これまでオリンピック・パラリンピック教育を展開してきました。</li> <li>各学校で創出してきたレガシーが引き続き、子供たちの学びを支える重要な役割を担うことができるようにしていきます。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>オリンピック、パラリンピックで活躍した人が学校に訪問をすることで、そのスポーツへの興味も高まると思うし、体育への興味も高まると思う。</li> <li>生でオリンピック、パラリンピックの技術を見たら、体育をするだけの意欲だけでなく、観る、支える方の意欲も高められるのではないかと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリンピックやパラリンピアン等の学校教育への参画を推進し、子供たちが運動・スポーツの特性や楽しさを味わうことができるようになる取組を大切にしていきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>最近小学校体育で実際に逆立ちの動画を各自撮影したがそれを見てどこが悪いかを、体操選手が指導してくれるとかならとても嬉しい。</li> <li>学校に来てもらうだけでなく、自分たちで行くのもあるとよいと思う。（そういう選手たちの競技や練習を実際に見る）</li> </ul>			
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な方策について、大変充実している印象がある。一方、何を、どこまで、いつまでという具体的な指標が示されていないことから、フォローアップをどのように考えているのかが気になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IV PROJECT 1～5 及び参考資料に成果指標を掲載しました。</li> </ul>	